

大盛況の「名古屋大学レクチャー2016」

10月19日にも「案内レポート」したが、11月19日の午後、名古屋大学豊田講堂で「名古屋大学レクチャー2016」が開催された。この大きな豊田講堂にどれだけの人が集まるのか心配だったが、あいにくの天気の中、大勢の参加者がつめかけた。

松尾清一・名古屋大学総長の開会挨拶後、寺西俊一・一橋大学名誉教授が「戦後日本公害史と“宮本経済学”の意義」と題し、解説講演した。「私と宮本憲一先生との接点」

から話が始まり、「未来を照らす巨匠としての宮本先生」と締めくくった。25分という短い時間であったが、解説講演にふさわしい内容であった。

寺西さんは現在、日本環境会議の理事長として、宮本先生らを引き継いで活躍されている。わが国で初めて開設された一橋大学「環境経済学」の講座を担当し、多くのお弟子さんを育ててきた。寺西さんとは長い付き合いであり、日本環境会議名古屋大会・四日市大会でお世話になった。講演の最初は、いささか緊張気味だったが、すぐにいつもの調子に戻った。

「名古屋大学レクチャー楯 贈呈式」（開会後は撮影禁止なので、開会前の写真。スライド右に置かれているのがレクチャー楯）後、宮本憲一先生が「持続可能な社会への道—戦後公害の歴史的教訓から」と題し、90分間にわたりパワーポイントを使い、鋭く問題を提起した。

宮本先生の講演はいつも内容豊富で、新たな「発見」をする。重大な転換期である。アメリカの次期大統領トランプはパリ協定破棄、石炭・石油政策の規制解除などを公約としており、地球環境の危機に警鐘を鳴らす。

安倍内閣の冷戦を進める安全保障政策、原発再開・輸出政策、異次元の金融財政政策による経済不安、改憲による戦後民主主義の危機に懸念を示す。こうした危機の時代にあって、足もとから維持可能な社会を展望するために内発的発展を提唱し、その実践に期待を寄せる。

先生は今回、座右の銘の一つ、ブレヒトの「ガリレオ・ガリレイの生涯」の言葉で、講演を締めくくった。「私は、科学の唯一の目的は、人間の生存条件の辛さを軽くすることにあると思う」名古屋大学レクチャー、とりわけ現代の科学者にふさわしい言葉だ。

(2016年11月22日)

